

11 乳腺外科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

当科のプログラムは乳腺科医師として専門的な視点から乳腺疾患の診断、治療ができるように指導を行う。また放射線科、病理科、薬剤部、看護部と綿密に連携してチーム医療に根ざしたレベルの高い診療を構築してゆくことを特徴としている。さらに研修を通じて乳癌学会認定医、乳腺専門医取得に必要な手技、知識を身につける。認定医、専門医を取得するために外科専門医が必要な場合は外科、心臓血管外科、小児外科のローテートも可能である。

2. 研修内容と到達目標

1年目

乳腺疾患の基本的診断法：視触診、マンモグラフィ、超音波診断(US)を習得する。穿刺吸引細胞診、針生検の手技が遂行できる。CT, MRI, 骨シンチグラフィの読影ができる。入院患者の周術期管理、緩和ケアができる。患者、家族に病状、手術の説明ができる。指導医のもとで乳房切除術を施行できる。学会、研究会で症例報告を発表できる。

2年目

1年目に引き続いて乳腺疾患の画像診断に習熟する。細胞診、病理組織診断の基本を理解する。外来において乳腺疾患患者の診断プロセスが構築できる。指導医のもとで乳房温存手術を施行できる。学会、研究会での研究発表、論文作成ができる。

3年目

乳癌術後補助療法、術前化学療法、転移性乳癌の薬物療法を企画、実行できる。臨床研究を企画、実行する。臨床試験に参加する。患者に臨床試験の説明をして Informed Consent を取得できる。